

令和4年度第1回太宰府市立図書館協議会 会議録

日時 令和4年11月25日(金) 18:00~20:02

場所 プラム・カルコア太宰府 研修室3

出席者 【委員】 時里会長、永利副会長、藤野委員、中村委員、黒田委員、
【事務局】 文化学習課：中山教育部長兼文化学習課長、岡本係長、廣見
市民図書館：今村館長、佐藤司書

傍聴人 なし

委嘱状交付、教育長あいさつ(代読)、新委員、事務局紹介

○事務局

本日の令和4年度第1回太宰府市立図書館協議会につきましては、委員の過半数に出席いただいておりますので、太宰府市立図書館協議会規則第4条第2項の規定により、協議会は成立しております。

(協議会開会)

会長あいさつ

協議事項

(1) 令和3年度の報告(館報)について

○事務局

「だざいふのとしょかん 令和3年度の報告」をご覧ください。

1ページ目のグラフで5月、8月、9月の貸出数が少ないのは、緊急事態宣言で臨時休館したためです。図書館開館日数をご覧ください、予定では289日開館予定でしたが248日となりました。緊急事態宣言での臨時休館は44日に及びます。しかし、9ページの新型コロナウイルス感染拡大防止の対応をご覧くださいとわかるように、6月と9月も緊急事態宣言が延長に入ったときから、市の新型コロナウイルス感染症対策本部の許可が下り、図書館だけは開館できましたので、他の市内公共施設より32日間多く開館しています。また、8月10日から9月12日までは臨時休館中でしたが、本館臨時窓口で予約貸出を実施しました。臨時窓口の日数は、開館日には含めていません。

2ページ目の表は、資料別貸出数と本を借りた人数の前年度との比較の表です。前年度より本館は7日開館日が減りましたが、本館は貸出数、利用者数とも増えています。要因としては、新型コロナウイルス感染症対応地方創生交付金によって資料費が増えたこと、本館臨時窓口で予約貸出を行ったこと、緊急事態宣言が長く家で読書をされる方が多かったことが考えられます。なお、図書館入口に設置したカウンターで数えた入館者は124,929人で、本を借りた人数の約1.8倍の方が図書館に来られています。しかし、移動図書館については巡回日が14日減ったことと、オミクロン株による感染拡大で小学校の学級閉鎖や昼休みの時間がない時期、異学年との交流を避けた昼休みで、小学校の利用が激減したことで8%減となっています。他市との比較は、本日「筑紫地区図書館比較表」と「人口同規模図書館比較表」をお配りしています。人口同規模図書館比較

表の方は人口が7万人から7万3千人の市をピックアップして個人貸出の多い順に並べ替えております。太宰府市の現状を把握できると思います。

4ページ目は移動図書館のステーション別貸出数の表です。利用が多いのは、高齢者施設、小学校、夕方の公園や公民館となっています。ただし、小学校については、利用がその前の年度（令和2年度）に比べると三分の一や半分になっているところもあります。貸出数全体のうち12歳以下の子どもが借りた割合は、本館が12.4%に対して、すすく号では31.7%となっており、図書館まで足を運ぶことが難しい子どもたちの利用が多いことが特徴となっています。

6ページ目のブックスタート・ファーストブック事業は、令和3年度もコロナ禍で4か月児健診、1歳6か月児健診とも集団健診から個別健診となったため、ファーストブック事業は中止。ブックスタートは、昨年度同様に子育て支援センターと連携し、およそ1か月児の「こんにちは赤ちゃん訪問時」に絵本パックを渡していただきました。すでに訪問が終わっている方には、4か月児健診のお知らせを子育て支援センターから送るときに「絵本プレゼント券」を同封してもらい、満1歳までに市民図書館に来ていただきました。これで、こんにちは赤ちゃん訪問では92%の方が、図書館では22%の方が絵本パックを受け取っています。おはなし会はコロナ禍の中での体制を整え、前年度よりは多く行うことができました。

8ページの見学は2校、体験学習は申込なしとコロナ禍の影響を受けています。また、図書館ボランティアは、令和3年12月から活動を再開しましたが、コロナ禍前のように活動されていません。

10ページ、11ページは令和3年度の行事です。令和2年度に比べると手探り状態でしたが、行事ができるようになりました。プラム・カルコア太宰府全館を使用する福岡こども短期大学と共催の「七夕まつり」は、4回の事前打ち合わせを行ったうえで開催しました。また、昨年度は移動図書館「すすく号」40周年記念事業として、6月から10月に渡りすすく号へのメッセージカードの募集、はずれにはすすく号豆知識掲載の当たりくじ、すすく号顔出しパネルでの記念撮影等、職員手作りのものを展開したうえで、10月30日に表にあるイベントを行いました。表紙にある左上の写真がみなさまからいただいたメッセージカードを掲示したものです。移動図書館車にも掲示してありますのでもっとたくさんのをいただいております。右上が子どもふれあい工作教室、左下がハロウィンおはなし会、右下がすすく号顔出しパネルです。顔出しパネルは、緊急事態宣言で休館中に職員が段ボールを使って手作りしました。

12ページは令和3年度決算及び令和4年度予算です。令和3年度の図書購入費に新型コロナウイルス感染症対応地方創生交付金の400万円が含まれています。以上が館報の説明です。

○時里会長

では、ご意見・ご質問などありましたらお願いいたします。

○黒田委員

初めて見るパターンの収支のようですが、これは予算収支ですか。

○事務局

令和3年度の決算が終わったものです。4年度は予算です。館報には毎年これで載せています。

○時里会長

筑紫地区の図書館の比較表と人口同規模図書館比較表を興味深く見せていただいておりますが、これについて事務局から何か説明することはありますか。

○事務局

筑紫地区図書館比較表は、財政に予算要求する時にいつも近隣市との比較を聞かれるため、令和3年度のデータとして日本図書館協会に出すものを筑紫地区では先に交換して作成したものです。本市の個人貸出の「うちBM」は、令和2年度よりは減少しましたが、人口の多い春日や筑紫野や大野城などの移動図書館車を持っている他市と比べると利用が多いことが分かります。人口同規模図書館比較表についても同じで、本市は「うちBM」が58,000冊くらい貸し出してまして、他の移動図書館車を持ってるところに比べると断然多いということが分かります。和歌山県の田辺市と大分県の佐伯市は多く貸していますが、移動図書館車が2台あるので、太宰府市は1台でこれだけ頑張っていることは行政にも示せると思っています。

各統計を各館が日本図書館協会にあげていますが、勘違いをして数字を出している図書館もあるようです。例えば筑紫地区の図書館比較表で有効登録者数はこの年度に利用カードを使った登録者数ですが、全登録者数をあげている市もあるようです。統計担当者によっては違う値が出てくるということもご承知おきください。

○時里会長

近隣の同規模図書館の中でも移動図書館に特色があるということが如実に出ていますね。ただ一方では、筑紫地区の人口規模からいうと一目して職員数が少ないですね。予算をみるとそれほど少なくはないようですが、まあ、比較ではあります。

○事務局

経常費で見ても筑紫野市、那珂川市はちょっと低すぎるので間違っていると思います。ただ資料費については間違いがないので、太宰府市の方が那珂川市より人口が多いんですが、残念ながら資料費は太宰府市の方が少ないです。

○時里会長

職員数の少なさは気になりますね。鶴ヶ島は7万都市で36人というところもあります。

○事務局

鶴ヶ島は分館を6館持っているのですが、どうしても人数が必要になります。ここは10年位前に見学に行ったことがあります。もっと利用が多かったのですが利用が低迷しているなど資料を作成しながら思いました。

○永利委員

3点ほど質問があります。まず、3ページの平成29年度から5年間の推移を書いたもの、コロナ以前から比べると減ってきているなど。日本図書館協会の統計からしても平成24年がピークなんですね。それからずっと右肩下がりで、これを踏まえて歯止めが効くように何か特色あるサービスをしているか。どこもなかなか決め手はないと思いますが太宰府市さんで何かしていたら教えてください。2点目は、5ページのレファレンスサービスというのは、参考調査といって、基本的な司書の資質を測る専門性を生かすところで、それぞれの自治体によって教え方が違うと思うのですが16件は少なすぎるのかなと思っております。だいたい40~50件くらいはあるのかなと。コロナ禍であっても電話・ファクス・インターネットで問い合わせがあったと思いますので。どういう基準でされているのか、また他市との区別がどこ

にあるのか。3点目は先ほど配付された2つの表を比較しますと筑紫地区には市の職員が「1」となっていますが同規模の方には何も入っていないので何か変化があったのか。以上3点について教えてください。

○事務局

まず、1点目は、うちのピークは平成16年でそこからずるずると減少しています。そこで、最近力を入れているのは時事特集です。新聞記事と連動した特集を玄関から入ってすぐの目に留まるところに配置して、こんな本があるとPRして、来られた方からは「特集があったから普通は読まない種類の本を読む」というような意見をいただいています。ただ、来られない方へのアクセスは決定打がなく、どうしてもインターネットの普及で読書以外の所に時間を取られているのかなと思っています。何かあれば教えていただきたいところです。2点目のレファレンスについて、参考調査というのは「こういう風に聞かれてこう答えました」という報告があがってきたものをカウントしています。ちょっと時間がかかったものは報告をあげてほしいと私も職員にお願いをしてるんですが、実際のところ皆さん忙しくて、問い合わせ・読書相談の方に入れてしまっている人がいて、なかなか件数が上がっていません。3点目は、市の1人というのは私のことですが、市から財団の方に派遣されていますのでここには1人としていますけど、日本図書館協会にあげるときは、私は財団職員の方にカウントしています。なぜ筑紫地区の方で1人としてあげたかという、太宰府市の経常経費の所に私の給与諸手当が入っていないからです。それをはっきりさせるために私の立場を市の方でカウントしています。

○永利委員

2番目の質問に関連して、5ページに国立国会図書館のことが書かれていますけど、国立国会図書館へのレファレンスの事例の報告とかは入っていますか。

○事務局

入ってはいます。郷土資料の方はあげるようにとは言ってますけど、ぼちぼちです。レファレンスの時にはみんなよく活用させていただいています。先ほど時里先生に言っていただいたように人数が少ないので、そういう仕事が後回しになってしまっていて。本当はよくないことなんですけど。

○時里会長

ほかになれば、協議事項(2)の第2次太宰府市子ども読書活動推進計画進捗状況について事務局から説明をお願いします。

○事務局

それでは、第2次太宰府市子ども読書活動推進計画の進捗状況について、ご説明いたします。「第2次太宰府市子ども読書活動推進計画の進捗状況」と書いてある資料をご覧ください。これは令和3年度に実施しました事業の報告で、計画の4年目となります。令和3年度は、令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響により、一部事業の休止をしており、事業が実施できなかつたり目的を達成できなかつたりしたものがあつたり、達成度については軒並み前年度と同等の傾向にあります。それでは、計画に記載してあります乳幼児期、学齢期、青年期、協働のそれぞれの領域ごとに取り組み状況をご説明します。

まず、乳幼児期ですが、1ページから5ページをご覧ください。乳幼児期を対象とした事業につきましては、昨年度同様に新型コロナウイルス感染拡大による事業の縮小や中止を余儀なくされたものがございましたが、令和2年度と比較しますと事業の実

施は回復傾向にあり、特に3ページの取組み5番「読み聞かせ・おはなし会の実施」についてはコロナ禍前よりは回数、人数ともに減少はしているものの、昨年度と比較すると回数、人数は増加しています。

次に、学齢期です。6ページから10ページをご覧ください。達成度はほぼ前年と変わりありません。8ページ、取組み23番「移動図書館の学校乗入れと身近な場所の巡回」については、感染拡大予防に努め児童・生徒の読書を支援しました。ただ、学級閉鎖等もありまして、予定通りに実施できていないところもございます。9ページ、取組み25番「学校支援事業」につきましても、令和2年度から体制が変わり市民図書館司書が学校図書館の業務支援を巡回して行うことができなくなりましたが、代替として学校司書からの依頼を受け、授業支援図書の貸し出しを行いました。また、学校教育課からも状況や要望に応じて電話やFAX等で指導助言を行っております。10ページ取組み26番「児童生徒の見学・職場体験」及び27番「特別支援学校・学級への支援」についてもコロナ禍のため事業の一部について要望はなかったものの、感染拡大防止に努めながら見学の受け入れ及び団体貸出を実施しました。

次に青年期ですが、11ページから12ページをご覧ください。こちらも昨年度から大きな変更はありませんが、取組み28番「ヤングアダルトコーナーの環境整備」につきましても、コロナ感染防止対策のため一部配置の変更があり配置資料の定着が図られていないため達成度を下げております。

最後に協働ですが、13ページから16ページをご覧ください。令和3年度については令和2年度にコロナ感染拡大防止のため実施できていなかった取組み34番「こども読書の日」を中心とした読書に関する日の普及啓発の推進」、取組み38番「図書館ボランティア育成の講座・情報交換会などの開催」、取組み40番「保護者・読書ボランティアの協力による読み聞かせなどの推進」において、感染拡大防止策をとりながら事業を実施しております。令和4年度につきましても、年間計画に基づき各事業を実施しており、今後も実施予定としております。

第2次太宰府市子ども読書活動推進計画進捗状況の報告は以上でございます。

○永利委員

Cの評価を付けられているところがいくつかありますが、例えば15ページの39番、子育て支援課に対する保育雑誌・紙芝居等の貸し出し希望がなかった、今後要望があればということが書かれていますが、働きかけということが全く書かれていない。要望があるかどうかは分かりませんが、達成度Cとなっているところは積極的に働きかけをするということで課題を捉えたらいかがでしょうか。

○事務局

今回は子育て支援課からの回答をそのまま載せておりますが、貸し出しや受け入れの要望がなかったところについては、担当課に働きかけてどうしたら受け入れや要望を増やすことができるのか、働きかけをできるようにこちらからも伝えていきます。

○藤野委員

子育て支援課とかいてありますが、これはごじょう保育所を対象と考えてよろしいですか。私たちは保育園ですけどこの辺の話は一切分からないので。

○事務局

ごじょう保育所だけではないです。

○藤野委員

前半の方のいくつか、例えばクラスたよりでの絵本の紹介とか書いてありますけど、うちの方もおはなし会とかいないないばあさんに来てもらってしていただいたりをしてますが一切あがってこないわけです。蔵書の方も園内文庫として1600冊ほどの蔵書があり、結構絵本活動は園独自で青空文庫として取り組んではいるんですね。まあ、園独自で行ってはおりますのでね。また、出張青空文庫として子育てサロン関係にも貸し出しています。一般の方にも月曜日と木曜日は開放しています。そしてまた、子育て支援センターも行っているんですけど、支援センター内で出前保育をしているんですね。出張として園の蔵書をリクエストに答えて持ってきます。だいたい利用者が何歳児とかそれに合わせて職員がセレクトして貸し出しを行っている状況ですけども。もしよろしければそういうのもこれにあがってくれば、子育て支援の方の活動がより厚くなってくるのかなと。これを見ていると保育所に関して言えば私たちが蚊帳の外なんですよね。どの立場での活動をあげてらっしゃるのかなと思ひまして質問いたしました。

○事務局

保育児童課からの回答をそのまま載せておりましたので、どこの保育所の対応とかいうのはこちらでも把握しておりません。申し訳ありません。今後保育児童課の方に働きかけをしまして、およそ保育園でやっている事業等の把握に努めていただくようにこちらからもお願いをしたいと思っております。

○時里会長

現場と子育て支援課と図書館とどう連携して進んでいくのかという話ですね。

○藤野委員

私達もこれのどこにあげていいかわからないですし、まったくの単独で行っているのです。

○時里会長

こうやってあげると出てくるけど別々に記述されているところもあって。おかしいところですね。工夫がいるかもしれません。他になれば3点目に移ります。令和4年度事業進捗状況について事務局から説明をお願いします。

○事務局

「令和4年度事業進捗状況」をご覧ください。こちらの資料は10月末の状況で資料を作成しています。私から説明させていただく内容は昨年と状況が変わった事業と、11月に実施した事業について説明します。全ての事業はコロナ感染対策をとって実施しました。

まず【読書推進事業】の項目1段目「読書推進講座」は昨年同様、元太宰府市文化財管理指導員の大隈さんに太宰府政庁跡と、観世音寺を案内していただきました。2日目は若干天気が悪かったのですが無事に実施でき参加者はのべ17名でした。次に6段目「図書館見学等受入」、こちらは11/8に太宰府高校から3名総合的な探求の時間として、地域の課題を解決する学習で図書館にインタビューにられました。こちらは館長が対応いたしました。また、最後の項目「福岡県読書推進大会 太宰府大会」は太宰府市の市制施行40周年記念事業として実施し、内容については先ほど時里会長が述べられていましたので省かせていただきます。100名の方に参加いただきました。

た。教育長のあいさつでも述べられていましたが、参加された方たちからはとても好評でした。

次に、【子どもの読書活動推進事業】の項目 1 段目「ブックスタート」は個別 0 組となっておりますが、すべてのご家庭に訪問で実施できたため個別での対象者がいなかったからと考えられます。次のページ 8 段目、7 月に福岡こども短期大学と共催、太宰府市子ども文庫・読書サークル連絡協議会の協力で実施した「七夕まつり」は昨年同様事前申し込み制にしましたが、今年はネットの申込みフォームで受け付けを実施しましたので、申し込みが多数ありました。11 段目、9 月に図書館主催で実施した「こどものための夏の終わりの演奏会」は 3 年振りに開催できました。例年演奏いただいている、九州大学芸術工学部フィルハーモニー管弦楽団のひまわりオーケストラの学生に加え、今年は財団の 30 周年事業としてプラスαの予算がつけましたので、プロのハープ奏者をお招きして共演していただきました。下から 2 段目、出張おはなし会はコロナ禍になり、昨年は特別支援学校からのみの依頼でしたが、今年は地域の高齢者のグループからの依頼があり、10 月に 1 回実施しました。

次のページ【学校支援事業】の 4 段目「小中学校図書館見学・職場体験受入」のインタビュー中学校 1 校は、コロナ禍で職場体験ができなくなったことで代わりに実施された学習の一環です。説明は以上です。

○永利委員

最後の学校支援事業ですが、授業支援の図書の貸出数 23 件はたいへん少ないんじゃないかと思えます。先ほど説明がありましたけれど令和 2 年度から体制が変わったということなんですが。私も実はボランティア団体の方々と 2019 年の 9 月に学校図書館ガイドラインについて考えるというのをやったんですね。当時の教育部長の江口さんがお見えになりまして、大変興味深い話を聞かせていただきました。太宰府市も国の学校図書館ガイドラインに倣って学校図書館ガイドラインを太宰府市独自で作りました。ということをおっしゃっていました。たぶん、この 23 件というのは、令和 2 年以前から比べると極端に減っているんじゃないかと。その当時の数字がありませんのでわかりませんが。せっかくそのような素晴らしい取組みをされている中でこの数字をもう少し増やさないと。特に中学校は 0 となっておりますので。私が勤めていた小郡市では学校図書館支援で毎月数件、数十件、図書の冊数にして 9,000 冊とかそれくらい出しているんですね。学級文庫を含め調べ学習とかそういう支援をしておりますので。学級文庫は上段に書いてありますから、そういった下地がちゃんとあるんじゃないかなと感じています。それで最初に 23 件というのを見て驚いた次第です。

○事務局

館報の 7 ページを見ていただきたいのですが、令和 3 年度の件数がありますけど、今年度はだいぶ少なく、学校司書さんがキーになって申し込まれるのですが、実は学校司書さんの入れ替わりが激しくて、新しく入った方はなかなかそこまでできません。今、学校教育課に市民図書館にいた司書が職員としておまして、そこがハブになっているんですけど、学校教育課も忙しいので、新しい学校司書さんの教育がままならないと。新しい司書はもう目の前の仕事しかできなくてそこまで余裕がないというのが減っている要因ではないかと思っています。こちらからも PR はしていますが、一人職場なのでどうしても難しいところはあります。

○永利委員

それに付け加えてお話をすれば、学校では今年から探究的な活動にカリキュラムが

変わりましたし、そういった意味では何か書物とかインターネットとか情報をもとにして主体的な学びを深めてという形になってきておりますので。これは先生方に授業で取り組んでいただかない限りはいくら司書さんに働きかけをしてもなかなか厳しいんじゃないかと思います。「資料を使って授業を展開する」それは学習指導要領でそういうふうにしなさいと言われておりますので。そういった意味ではたぶん研修も学校教育課の方で教職員の方々にされていると思いますが、積極的に使われる学校司書、それから司書教諭の先生、校長先生がリーダーシップを発揮しなさいということもその学校図書館ガイドラインにも書かれていますので、そういうことをもう一度されないとこの数字は伸びないと。先ほど館長さんの話を聞いて、今までは司書の方から働きかけをしていたかもしれませんが、ベテランの学校司書がいなくなったら、それができなくなってきている現状なのかなと拝察されます。

○時里会長

考えたらなかなか根深いのではないですかね。今日は小中学校の委員が欠席なので実態がよく分かりませんが、なぜ学校図書館の方がそんなに替わるのか。授業の中で先生方がどういうふうに図書を使うような運営をしてるかとか。図書館だけではなく構造的なもののような感じはしますね。

○事務局

ひとつ付け加えて、学校教育課の方の仕事が忙しくなって巡回ができなくなったという話ですが、以前は巡回の時に申し込みがあった本の配本をしていたんですけど、巡回がなくなったことで司書さんが直接借りに来られるようになりました。それが業務外の時に来られるので負担が大きかった。そこで改善して本年度は用務員さんに依頼をすれば配送していただくことが可能になりましたので、そういうふうにご協力いただけるようになったことを、こちらからもアピールしていければと思っております。

○時里会長

大変ですね。これは10月末の記録ですよ。まだ5ヶ月くらいはあるからこの数字で留まるわけではないでしょうけど。

○事務局

あともう一つ、学校司書さんが年度の途中でも替わることがあって、それもまた…

○時里会長

これはどういうことなのでしょうね。学校司書の方の問題なのでしょう。それとも学校の別の問題？

○事務局

そこは分からないんです。学校司書は学校教育課の方が雇用しているものですから。

○時里会長

そこでまた溝があると。

○事務局

「替わったよ」という情報しか入ってこなくて。

○時里会長

また連携の問題ですね。

○事務局

一緒に研修会をやりたいとか声をあげているんですけど、コロナ禍で人数しばったりとか色々ありまして行われていないんです。

○黒田委員

オンライン研修みたいなものもないのですか。対面研修のみ？もう緊急の場合はオンライン研修でいいのでは？

○事務局

すみません、学校司書さんにはネットを使用できる環境がないらしいんです。

○時里会長

そもそも整備がされていないのですね。それもひとつ問題ですね。

○黒田委員

それはもうあげてもらっていいんじゃないですか。今時、それがネックというのは正直…

○時里会長

うん、それは課題としてあげてもらってよいのでは。

○事務局

来年度については、まずは図書館システムを連携しようという話にはなっています。

○黒田委員

オンラインの良さって時間とかを超えて直で繋がれるというのがあると思うので、時間の短縮とか、業務を簡略化するためにはね。

○事務局

学校は学校で、司書さんの働く時間が違うんです。そういうのもあって。

○黒田委員

せっかくものすごく色々やっているのに、いまいちPR、周りの人に伝わっていないというか、毎回私は残念だなと思っています。

○事務局

来年度はまずはシステムを連携しようという話になっているので、もう少しお互いのデータが見れるようにはなります。

○黒田委員

ここから意見があがっていると言ってもらった方がいい。

○事務局

少しずつ進めたいと思っています。

○時里会長

この授業支援図書貸出しというのは、ここの図書館のという意味ですか。それぞれ小学校中学校の図書室にもあるわけですか。それもあつつつ、もうちょっと高度化、専門的なことになったらここの図書館ということですかね。

○事務局

例えば、ひとつの課題でうちが冊数的に対応できない時は、どここの中学校が持っているのだからそこから借りてはいかがでしょうかとアドバイスはしています。それはここには入ってません。それは学校間でやっていることなので、学校教育課に言って、そちらからアドバイスしてもらっています。

○時里会長

学校間とか、学校と図書館間とか、その間のアクセスがうまくいっていない感じがしますね。

○黒田委員

ネットだけではなくて、例えば紙・カードでとか。何かを1個介さないといけな

いではなくて、例えば子どもが借りたいもの、先生が借りたいものがある時にパッとメモして箱に入れておいて、それを見て回るとか、ちょっと他の人達ができるようなこと、司書さんだけでなく、回るのは大変だとは思いますが。アクセスがしにくいのかなと私は思うんです。市の人がそれはできないんですか。フォローできる方がいるんじゃないかな。集めるだけだったら、それは図書館の方じゃなくてもね。

○事務局

それこそ、永利先生から小郡市の方でしてきてあるのを教えていただきながら、太宰府市でできることがあれば取り入れるとかですね。私も11月に部長になったもので現状がよく分かってなくて、学校教育課の部長と話しながら、あとは小郡がうまくいっているという事例があれば教えていただいて参考にしたい。司書さんは司書さんで一生懸命してらっしゃる、学校は学校でなかなかそこまでうまく回らないといういろいろな課題もあってですね、そこは持って行き方だと思うのですが、今のところは改善も難しいような気がします。

○黒田委員

アクセスのしにくさっていうのは、頼もうとした人が忙しそうだったら、人は言いにくなるんですよね。だからポストとかがあったら、先生達がこの資料使いたいとかがあったら、思いついたときにポンと入れて、市の職員さんが何かのついででもいいので巡回して集めて図書館に届けてとか。他の人の手を借りるというのもね、図書館の人だけで解決しようとするの大変なので。業務の中に組み込めばそんなに大変な作業じゃないと思うんですよね。

○永利委員

私は学校支援を長くやってきておまして、学校図書館支援センターというのをまず作りまして、学校司書をサポートする体制を作ったんですね。それと、学校と市立図書館と情報のネットワークを一元化しました。そのことによって、学校司書さんからメールでこんな本が欲しいとか直接ダイレクトに来るようになりまして、それが図書館だけじゃなくて学校間でも広がるわけですね。それと連絡便を回すことをシルバー人材センターに頼んで週2回やっております。学校司書さんは授業をする先生からきちんとヒアリングをして「何の本が欲しい、どういったテーマで本を集めてもらいたい」ということを聞いたうえで他の学校、まあ同じタイミングで進みますから同じ小学校中学校には出せませんので、小学校である場合には中学校、高等学校や図書館。そしてその本を今35人学級で、だいたい先生は授業をするときにそのテーマの本を子どもひとりに1冊欲しいと言うんです。図書館だけでは絶対集まらないし、学校図書館単独でも集まらない。それが小郡市で言えば40万冊の本がネットワーク化されてますから、その中から適切な本を選んで司書さんが目を通して、これは子どもが理解できると。そういったところまでサービスしないと授業支援というのは難しい。

○黒田委員

専門で委員会のようなものがあったんですか？

○永利委員

学校図書館支援センターが市民図書館の中にあるので。職員が2人常駐しています。

○中村委員

先ほど先生が紹介された2019年に行われた時、たくさんの課題があがってたんですけど、まず実行できることのひとつとして、司書と司書教諭と先生が打ち合わせをする、例えば朝礼に出るとか、そういった時間さえ司書の方は取れていない。ほんとに孤独な職場になっていたので、まずそこからスタートしませんかと先生からご提案いただいてその話を江口先生にお伺いしたら、まだ学校の中では司書の方が朝礼に出るのは難しい。時間が学校は8時から。司書の方は10時から3時までだったら、もう授業中なので全然打ち合わせができない。で、結局はその打ち合わせができることによって、「この本を授業で使いたい」ということになれば、この授業支援の図書の貸出数が増えるのではないかと思います。

○永利委員

太宰府市のキャンパスネットワーク会議、大学が5大学ありますので、そこに役員柄出ておりますが、市長さんはですね、高大連携ということでそのキャンパスネットワーク会議に高校も入れてらっしゃるんですよ。ですから大学と高校と連携したい、要は教育委員会が所属している小学校中学校高等学校大学と一緒に連携をさせたいというようなことを楠田市長は考えてらっしゃるんじゃないかとあの会議に出るたびに思っています。たぶん、この話は市長にお話になれば色々と策は考えてもらえるんじゃないかと個人的には思っています。今年は急に高校と連携をと、来年は会議の中に5つのうち4つの高校を入れると言っているんですよ。

○時里会長

キャンパスネットワーク会議は大学だけでしたからね。高校を入れようって話ですね。

○事務局

今年から正式にそういった形を作られてますね。

○時里会長

数値を増やすにはどうしたらよいかという話になっていますが、要は太宰府市の学生、生徒の学びの機会が失われているのではないかってことですよ。さらに学びが深まるのに、途中で終わっちゃっているのではないのでしょうか。また地域間の格差や学校間の格差が起きている可能性もあります。せっきくの学習の機会を確保してあげたいと思います。

ほかにありませんか。コロナもだいぶ落ち着きまして、過去2年間よりはやっていただいている気がしています。なかなかコロナ前に戻ることは難しいと思います。そもそもコロナがいつ収束するのかということですから、ご苦労なさっていると思います。それでは、協議事項3件については以上で終わりたいと思います。

その他

(1) 図書館利用者アンケートについて

令和3年度に指定管理者が実施した図書館利用者アンケートの結果を事務局より報告。